

idea

ニュースレター「アイデア」

2020.11

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | なのはな健康長寿シニアーズ 伊藤明さん
- 3 | 団体紹介 | H28レディース「蓬莱の郷」活性化隊
- 5 | 地域紹介 | 第37区自治会(藤沢)
- 7 | 企業紹介 | 株式会社及川左官(室根)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴④
- 9 | センターの自由研究 | 末裔調査ファイルNo.1「芦東山」

今月の表紙

大東町浜民にある「深芦」という屋号で呼ばれる家の庭。今から320年前、この庭で遊んでいたかもしれないのが、岩淵幸七郎。後に改名し、日本の近代刑法思想の先駆者となる人物です。今月の自由研究は、当市が誇るこの偉人の「末裔」を調査しました。

idea

発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempo.on.ne.jp

お知らせ

情報

蓬莱山のヨモギ関連商品販売中!

本誌団体紹介ページに登場した「H28レディース『蓬莱の郷』地域活性化隊」では、大東町・蓬莱山で採れるヨモギを活用した「よもぎうどん」「よもぎ茶」等を販売しています。ヨモギは整腸作用や冷え性の改善にも効果があるとされており、これからの季節にぜひお試しください。道の駅のほか、一部商品はインターネット通販でもお買い求めいただけます。

- 商品概要:**
- ①「蓬莱山のよもぎうどん」
180g2人前 350円(税込)
 - ②「よもぎ茶」1.5g×7包 540円(税込)
 - ③「よもぎパウダー」25g 500円(税込)
- 問合せ:**090-7526-2856(佐藤)

イベント

運動習慣を付けるきっかけに! キッズ体操体験会

近年、子どもたちの運動能力は低下していると言われています。そこで、鉄棒や平均台、マット運動など、「キッズ体操体験会」を開催します! 楽しみながら運動習慣を付けるきっかけにしてみませんか? 参加費無料です。

開催日:2020年11月28日(土) 10時~12時

場所:東山中学校第2体育館 (東山町長坂字北山谷46)

対象:幼児~小学3年生
定員:30名(当日参加可)
主催:NPO法人グッジョブクラブ/公益財団法人岩手県体育協会
申込&問合せ:090-9749-0929
✉ hagita2@r6.dion.ne.jp (萩田)

情報

「食料支援事業」展開中

一関市社会福祉協議会では「食糧支援事業」として、地域住民や団体、企業から寄付された食品を、生活にお困りの方や福祉施設等に無償で提供する事業を展開しています(いわゆる「フードバンク」)。寄付したい食品は一関市総合福祉センター玄関に設置されているフードポストに入れるだけで、手続き等は不要です。対象食品は下記をご確認ください。

寄付対象食品:
未開封で常温保存可能な賞味期限3か月以上の食品
(例:缶詰、レトルト食品、飲料、お菓子等)
問合せ:0191-23-6020 (一関市社会福祉協議会)

情報

「おやこ広場」Facebook開設!

NPO法人いちのせき子育てネットがなのはなプラザ(一関市大町)1階に開設する「おやこ広場」は、おおむね3歳までの子どもとその家族が気軽に遊べて、楽しく交流ができる場所です。

Facebookでは、イベント情報や日々の様子などをお知らせしていく予定です。ぜひ下記QRを読み込み、フォローをお願いします♪

問合せ:0191-26-6401 (おやこ広場)
※月~金曜10~16時



講座

地域若者サポートステーション事業 「いちサポ 保護者のつどい」

わが子の自立や就職に悩んでいる保護者を対象に、全4回(既に2回の講座は終了)の講座を開催しています。各回とも、前半が講師の先生による講話、後半は講師の先生を囲んで、悩みや不安を共有し合います。詳しくは下記までお問合せください。

日時:第3回 2020年11月7日(土) 第4回 2021年2月6日(土) どちらも13時30分~16時00分

場所:なのはなプラザ内会議室
対象:わが子の自立や就職に悩む保護者
定員:各10名(先着順)
参加料:無料
問合せ&申込:0191-48-4467 (いちのせき若者サポートステーション)

譲ります

馬の堆肥 さしあげます

馬の堆肥を家庭菜園等で使ってみませんか。おがくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容易です。牧場まで取りに来てくださる方には無料でさしあげています。市内であれば軽トラック1台3,000円で運搬の対応も可能です。完熟堆肥ではありませんので、必要に応じて熟成させてください。

場所:佐々木牧場 (一関市中里字大平山23-76)
※「山桜桃の湯」さん近く
問合せ:0191-48-4461/080-1841-1800(佐々木)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「復活!なんちゃって鬼死骸停留所」



平成27年に路線変更で廃止となった「鬼死骸停留所」。廃止後もこのバス停を訪ねて来る人が絶えなかつたことから、真柴まちづくり協議会が当時の停留所標識を模した看板を設置! 早くも撮影スポットになっているとせん。なお、バスは停まりませんので、ご注意ください。



旧町村別の人口動態等を共有します。

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55881	-37	24279	+5
花泉	12643	-11	4729	+2
川崎	3489	-7	1292	-2
千厩	10422	0	4109	+5
大東	12800	-18	4993	+3
東山	6342	+4	2313	+5
室根	4729	-12	1794	-3
藤沢	7571	-15	2817	-2
一関市全体	人口 113877	-96	世帯数 46326	+13
	出生数 41	-24		

2020年10月1日付 (2020年9月30日現在 住民基本台帳より) ※外国人登録者含む

147 / 113,877

伊藤 明

旧東山町出身、一関市赤萩在住。昭和25年生まれ。高校卒業後、郵便局に就職し、大船渡市の吉浜郵便局局長で定年退職。定年後の現在はアルバイトと趣味の両立で多忙な日々を送る。平成29年に「シニアの健康長寿サポーター育成講座※1」の修了生に呼びかけ「なのはな健康長寿シニアーズ」を結成。要請に応じてシニアの健康づくり活動のサポートも行う。



第77回 なのはな健康長寿シニアーズ 代表 伊藤明さん × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

第2の人生への切り替えが決め手 ～肩書を捨てて踏み出そう～

平均寿命が延びる中、注目されるのが「健康寿命」※2。要介護状態を少しでも短くするため、健康寿命を延ばす取り組みが推奨され、実際に当市でもそうした取り組みが。「シニアの健康長寿サポーター育成講座」修了生で結成した「なのはな健康長寿シニアーズ」代表の伊藤さんに、健康寿命の考え方や、その実践において必要な視点を伺いました。

小野寺 陶芸、料理、ウォーキング、歴史……と趣味に忙しい伊藤さんですが、何がきっかけで現在の生活に？

伊藤 定年退職後、妻と2人で2年間は遊び歩いたんです。日帰りではありませんが、近隣市町村のあちこちに行つて。でもいつからか「遊んで歩いててもしょうがないな」という気になつてきて。お金も無駄使している気がしてきました(笑) そんな時に萩野焼まつりの作品募集が目にとまり、思い切つて電話したんです。さらに関連する陶芸クラブにも入会を希望してみたら、快く入会させてくれて。案外あっさり入れるものなんだと思つたことで、それを機に次々と講座などに応募するようになっていました。

小野寺 最初の一步が大事なんですね。何から情報は得ているんですか？

伊藤 市の広報の「お知らせ」

と安心して参加できたり。男は女性と違って交流よりも満足感を求めているので、他の人と交わらずにできるものの方が良いのかもしれないですね。

小野寺 バーターンダー教室とか良いかもしれませんね(笑)和気あいあいとすることを考えなくて良いなら、市民センター等で考える講座も変わってきますよね。男性向けの講座は自分が満足できるだけのもので良い、と。

伊藤 寿命が延びていますが、ただ生きていけば良いというものではないですからね。限られた人生、楽しく生きたい、楽しく生きるためにはどうすれば良いかを私はいつも考えています。

小野寺 伊藤さんの活動する会の名称にも「健康長寿」と入っています。伊藤さんは「健康長寿・健康寿命」をどのように考えていますか。

伊藤 一言で言えば「精神的に健康で生きていく」ことです。体の健康だけでなく、頭や気持ちの健康も大事で。なのでウォーキングの集まりを持つと

ページですね。あとは新聞と口コミです。スマホは持つてますが、シニア層には使いこなせないですよ(笑)

小野寺 市の広報はシニア世代にとつては重要な情報源なんです。新たな講座や団体に参加するのに躊躇はないですか。

伊藤 1つ参加する毎に知り合が増えるのでだんだん躊躇はなくなりですね。男性は自分一人だけということも多く、最初は失敗したな一と思えますが、始まってしまえばワイワイガヤガヤと楽しいです。何かに参加すれば絶対に視野も人脈も広がりますよ。

小野寺 男性は特にそうした活動に出てこないという声を耳にしますが、やはり少ないですか。

伊藤 20〜30人の集まりで男性2〜3人という割合が普通です。麻雀、囲碁、吹き矢などは比較的男性も多いようですが、それ

きも、途中で頭を使うために道中で施設見学を挟み、気持ちの栄養のために料理の得意な人が食事を担当する。冬場は無理に運動せずに、食事や交流の要素を増やし、全体として精神的な健康を維持することが大事だと思つています。

小野寺 各地で開催されている100歳体操も、どちらかという機能訓練であり、身体機能の維持が主目的。心の充実を同時に図らないと健康長寿とは言いえないわけですよ。

伊藤 趣味を続けるにはお金もかかるので私はアルバイトもしていますが、それも交流や情報を得るための大事な要素。何でも良いから外に出てみる事です。

小野寺 人と会っているうちは若々しいですよ。会社にいれば嫌でもコミュニケーションがあり、刺激があつた。それが無くなると男は特に弱つてしまうのかもしれないですね。肩書が人を作るとも言いますが、肩書を捨てて一歩踏み出す勇氣と、社会的な一助が必要ですね。

以外はなかなか……。例えば「健康ウォーキング」なら来ても、そこに食事などを抱き合わせるのと来なくなつたり。現職の頃の肩書などが邪魔をしているんじゃないでしょうか。

小野寺 それは社会の構図としてあるかもしれませんが。男は肩書をいつまでもひきずる(笑)

伊藤 私も最後は局長でしたが、地元で終わったわけではないので、スパッと切り替えることができました。ある意味でヨソモノですから。地元で、かつ、ある程度の肩書で終わった人は切り替えが難しいかもしれません。

小野寺 民間企業で縦社会のボスだった人とか、役場職員とかは出て来にくいかもしれませんね。そうすると定年退職前から「第2の人生講座」のようなものが必要なのかも。定年後に鬱のようになる人を減らすために。

伊藤 退職するとガラッと世の中が変わるんですよ。現役の時は金曜日の夜になればお誘いの電話が来たものだけど、退職すると一切なくなる。仕事がなく

なれば共通の話題もないし、自分としてもわざわざ連絡はしない。1年に1回O B会のようなものはあつても、その場限りの盛り上がりで次にはつながらない。結局第2の人生に切り替えるしかないですよ。

小野寺 仕事の切れ目が縁の切れ目ということですよ。仕事で半ば強制的に結びついていただけで、退職すればそのつながりは残らない。そうなると身近なコミュニケーションの方がやはり大事ですよ。仕事の関係性を過信しすぎではいけない、と。

伊藤 現役時代に固い仕事をしている人と退職後はよけいに社会参加が難しいと思いますよ。

小野寺 現役時代からの生き方が大事なんですね。やはりそこに社会的なサポートが必要で、シニア活動プラザも55歳から対象にはなっていますが、周知が足りていない状況です。

伊藤 なぜか定年後に蕎麦打ちを始める人が多いですが、男心をくすぐるんでしょうね。あとは「男の〇〇講座」となつてい

※1 一関市シニア活動プラザが平成28年度より開講している講座。「健康寿命」の概念を学ぶとともに、健康寿命を延ばす具体的な習慣や運動も学習し、地域の中で活動ができる「健康長寿サポーター」を育成することを目的に開催。
 ※2 健康上のトラブルによって、日常生活が制限されずに暮らせる期間。日常的に介護などを必要とすることなく、自立した生活を送っている年数。

団体紹介

女性パワーで地域を元気に

「ちょっと地域が寂しくなったよね」がきっかけ

大東町興田の中心地から北に6km弱、旧丑石小学校区の有志が中心となって発足した「H28レディース『蓬萊の郷』活性化隊」。

H28レディース「蓬萊の郷」活性化隊
「高齢になっても生き生きと地域で暮らしたい」という思いと「豊富な地域資源の活用」を目的に発足。空き店舗を利用した集いの場の運営のほか、地元の蓬萊山(通称よもぎ山)で自生しているヨモギを練りこんだ乾燥麺などの開発・販売等を手掛けています。

〒029-0602 一関市大東町鳥海字西丑石86-1
TEL 090-7526-2856 (隊長・佐藤)

写真：平成29年に開設した「ほっこりカフェ」と隊員たち



隊長を務めるのは丑石自治会の自治会長でもある、佐藤真由美さん。佐藤さんは千葉県出身で、結婚後、子育て環境を考え、旦那さんの地元・大東町興田に移住してきました。「移住当初は生まれ育った環境とまったく違った世界(農家)に戸惑いがありました。今となつては自然の恵みに生かされていることを実感。生活しているだけで四季を感じられる」と丑石の魅力を表現します。

団体を立ち上げるきっかけは職場(高齢者介護施設)の同僚との何気ない会話でした。「定年退職後はどうするか」「高齢になつても

H28レディース「蓬萊の郷」活性化隊

地元で収入を得て暮らせないだろうか」「なんだか最近地域に元気がなくなってきた」「山に山菜を取りに行く時期になつた」など、たまたま同じ集落在住で年の近い同僚が職場内にいたことで、「こうしたたわいもない会話の中心をつなぐと私たちにも何かできるんじゃないか」という発想にたどり着いたのだとか。

当時、一関市では「農村地域活性化モデル支援事業」の実施団体を募集しており、「退職後、地域を元気にするためにできること」を探すべく説明会に参加。参加者同士の情報交換で刺激を受け、「丑石の自然資源を活用した特産品の開発」と「それらが飲食可能なスペースを集める場を運営」することを軸に掲げ、5名の地域内有志で団体化し、同事業に手を挙げました。

地域資源を活用した商品開発

丑石と奥州市江刺にまたがる蓬

同地区の第一印象を語りながらも「地域の方々から声をかけていただき、色々な経験をさせていたただいている。残り期間は少ないものの、少しでも活性化隊のPRに繋げられるよう情報発信にも努めていきたい」と同隊における自身の役割について語ります。

前進し続ける「集いの場」

商品開発と並行して同隊が取り組んできたのが「集いの場」の創出。地区内の空き店舗(元美容室)を改装し、平成29年5月に開設したのが「ほっこりカフェ」です。カフェと言つても月に1回、参加者が季節の野菜などを調理し、お茶飲みをするサロンのような集いで、高齢者の介護予防が主軸。健康体操、創作活動、遠足、季節行事なども織り交ぜながら、同隊員が企画運営を行います。将来的には高齢者だけでなく、各種世代が交流できる場として展開していきたいという構想もあるのだとか。

現在は7名の隊員で活動する同隊。「発足から5年。当初は『あれもしたい、これもしたい』とみなぎっていた力も、様々な取り組みが形となる中で満足してしまつているところもある。高齢者の手仕事や地元での収入源の創

あなたにとって「里山」とは？

隊長



A. 人生の糧

さとう まゆみ
佐藤真由美さん

若い頃は、千葉県の合唱団に所属しており、よく通る素敵な声が印象的。趣味は山菜取りで「地元の山は宝の山」とのこと。

第27期ふるさと協力隊員



A. 心のビタミン

かなやま しゅうへい
金山周平さん

田舎暮らしに興味を持つ地元の友人を呼ぶことが任期中の野望。夏野菜を上手に栽培できたことに感動したのだとか。

出のために、さらなる商品開発を行うとともに、地元食材を使った農家レストランのようなものも視野に、前進していきたい」と隊長の佐藤さん。女性ならではの視点とパワーで今後も蓬萊の郷を盛り上げます。

- Photo

gallery -



ほっこりカフェ

毎月第3土曜日に開設。地域の方々が地元食材を用いた料理を持ち寄ります。いずれは農家レストランへの発展が目標！

蓬萊山のよもぎうどん

4月にパッケージを新調。よもぎうどんを使った料理教室なども企画中！よもぎパウダーやよもぎ茶も商品化、販売中です。



人生初の稲刈り

丑石で体験するほとんどのことが人生初の体験だという金山さん。若い力を見込んであちこちから声がかかります。



ノウハウを共有

女性有志による団体結成秘話、地域資源への着目、カフェの運営等、話題性あふれる同団体。視察研修も快く受け入れます。



第37区自治会（保呂羽）

昭和50年設立。41世帯、143人が暮らす中山間地域。総務、環境防災、女性、産業、文教、福祉保健、青年、産業部で組織されています。

左の写真：歳祝い兼ねた新年交賀会での集合写真(令和2年)



時代の変化と変わらぬ地域のまとめ

第37区自治会は藤沢町保呂羽地区にある保呂羽山麓の西部に位置し、地域の中心を県道藤沢大籠線と黄海川が横断している中山間地域です。

今回お話を伺った自治会長の岩淵敏さんと副会長兼行政区長の山口晴伸さんは、若い時は就職などで一旦藤沢を離れていましたが、自治会が設立された昭和50年に2人が地元に戻ってきたということもあり、長年自治会活動の中心を担ってきました。

設立当初は地域内の旧稚蚕飼育所を集会所としていましたが、昭和60年に自治会員が一丸となって廃校舎の材料なども利用して現在の自治会館を建設。当時は自治会内に中高生部を設けたり、自治会館の中に「こども図書館」を作って自由に利用できるようにしたりと子どもを中心とした活動も活発でしたが、近年は、少子化の影響で子供会は保呂羽地区(4行政区)

第37区自治会

藤沢

でまとまって活動するようになっていきます。自治会館やお寺の境内で行っていた夏祭りも藤沢町全体でのお祭り「縄文の炎・藤沢野焼祭」の開始とともに縮小し、藤沢野焼祭への参加へ移行していく形となりました。

時代や環境の変化に影響を受けながらも、自治会を通じて住民がつながれるような雰囲気作りや安心して暮らし続けるための取り組みを模索している同自治会に、その工夫や思いなどを伺いました。

無理なく楽しみながら集う機会を

「自治会活動を計画するとみな来てくれる。目新しいことはしていないが、活動が地域に定着してきているということでは」と話す岩淵さん。自治会の研修旅行には41世帯から35人程の参加があるなど昔から活動への参加率は良いそうです。「働き方も様々になってきたので日程調整には配慮している」とのこと、春先は環境整

時代の変化に対応しながら地域課題と向き合う

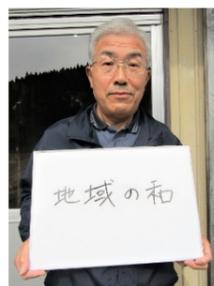
近年では、自治会内の防災組織の見直しにも着手。無料通信アプリ「LINE」のグループ機能を使って防災連絡網の作成を始めたのだとか。自然災害による被害箇所を撮影した画像をLINEで共有し、行政区長も兼任している山口さんが必要に応じて行政に連絡するという取り組みも始めました。「まだ自治会全体に浸透しているわけではないが、災害時にすぐに動けるようにしていきたい」と岩淵さんは話します。

また、一人暮らし世帯は自治会内に1世帯のみである一方、空き家が増えてきていることを自治会としての課題と捉え、空き家となった家の出身者と連絡を取り、班の中で管理などを協力する仕組みを模索中とのこと。「住むには良い場所なので、家だけは守ってもらい、空き家の活用などもできたら良い」と、できることから少しずつ取り組みが進められています。

「負担になると参加が難しくなる。気楽に集まってもらえるような活動を続けていきたい」と今後の自治会

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長



いわぶち さとし
岩淵敏さん
自治会長は1期2年目ですが、自治会設立当初から事務局のサポートや役員を務めてきました。

A 地域の和

副会長・行政区長



やまぐち はるのぶ
山口晴伸さん
これまで青年部長なども務め、スポーツ行事や野焼作品づくりなどでも大活躍。

A 野焼大賞 4回目を目指す

活動について話す岩淵さん。自治会含め多数担っていた地域活動の事務も、現在は少しずつ後任者への引き継ぎを始めているとのこと、人が集い、暮らし続けられる場としての自治会をこれからもみんなできつていきます。

- Photo

gallery -

野焼祭作品と賞状

自治会館前や館内のステージの上には、これまで野焼祭で受賞した作品や賞状が飾られています。



花壇づくり

3つの花壇を2班毎に管理。今年はコロナの影響で行事が縮小した分、屋外での活動が貴重な交流の機会になりました。



環境整備・一斉清掃

藤沢町全体の一斉清掃のほか、自治会独自の環境整備も実施。地域内の道路や河川の草刈り、ゴミ拾いを行っています。



料理教室

年に1回は環境整備と合わせて料理教室を行い、環境整備が終わったら自治会館でみんなで食事と会話を楽しみます。



室根 株式会社及川左官

室根

コテという道具を使って建物内外の壁に建材を塗る専門職「左官」。奈良時代の宮中の建築仕事を司る「属(さかん)」が語源と言われるほど、歴史の古い職業です。

室根町津谷川の株式会社及川左官は、現代表の及川晃一さんが、昭和54年に左官職人として独立開業、平成24年に法人化しました。

近年、左官業者は高齢化と後継者不足で減少しつつあるそうですが、同社では後継者の息子さんとともに、一般住宅のほか、蔵や文化財などの修復・復元工事を行いながら、左官業の魅力を伝え、その継承にも取り組んでいます。

「壁に命を吹き込む」職人技を後世へ

温故知新 化粧で蘇る職人技

「我々は人言えば化粧を施す役割」と左官業について例えるのは同社代表の及川晃一さん。中学2年生の時に父親が他界した晃一さんは「一家の大黒柱として自立するため手に職をつけよう」と決心し、昭和46年に仙台市の左官職人に弟子入りします。気仙沼市の左官工事会社での勤務を経て、昭和54年に独立、現在に至ります。

「当時地元では左官業をしている人がいないと思っていたが、修業を終えて地元に戻ってくるとあちこちに職人がいて驚いた」と当時を振り返りますが、現在は後継者がいないために止む無く生業を閉じる同業者が増加し、晃一さんの周りにも職人は少なくなつたと言います。

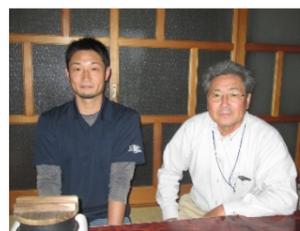
かつての日本家屋は土に藁や砂を練り込んだ土壁が用いられ、漆喰などで仕上げた壁が主流だったのに対し、近年の新築住宅の壁はクロス仕上げが主流。塗り壁は減少傾向ではあるものの、漆喰や珪藻土などの自然素材の効能(空気の浄化など)から、左官業の昔ながらの調査工程・壁塗り技法が再注目されつつあるのだとか。また、店舗・住宅やビルなどの

RC造(コンクリート)の現代建設現場でも活躍しています。

東日本大震災後は、一関市や気仙沼市の文化財のほか、民家の蔵や酒蔵などの修復・復元工事依頼が増加。修復にあたっては、良い粘土質の土(赤土・黄土)が素材で使われている場合には、それらを再利用し、新しい壁土として生まれ変わらせます。そうした長年の経験が培った職人技が口コミで広がり、インターネット等による情報発信を行わずとも依頼が絶えず、「化粧(技術)」によって歴史ある建物を多数蘇らせています。

土に触れ、漆喰の良さを後世へ

後継者不足が深刻な課題となりつつある左官業ですが、同社では息子の貴史さんが左官技術を継承。きっかけは「幼少期から見ていた父の背中だった」と貴史さんは語ります。「小さい頃から父親の仕事場を見て、



1 修復例：室根町・小山様宅の土蔵(平成17年)
2 晃一さん(右)と貴史さん(左)。
3 漆喰で再現したミニかまどと、11月のワークショップに使用する漆喰玉(=泥だんご)

子ども心にかっこいいと感じていた」という貴史さんは、高校卒業後、京都府左官技能専修学院に進学し、一級左官技能士の資格を取得。その後は父とともに文化財等の修復・復元工事などに携わると同時に、日本左官業組合連合会岩手県支部の青年部にも所属し、左官業界そのものも支えています。

また、11月に蔵美地域で開催される「蔵美地域文化祭」の中で、左官職人の技体験として「光る泥だんご作り」や「漆喰プレート作り」のワークショップを開催するという同社。蔵美地域にある「旧鈴木家」の土壁修繕がきっかけで発展した企画なのだとか。

「文化財などを永く保存していくための技術を継承するには、技や土に触れる機会を提供し、少しでも昔ながらの技法に興味をもってもらうことが必要」という及川親子の想いは着実に実現し始めています。

DATA

〒029-1211
一関市室根町津谷川字竹野下162-1
TEL&FAX 0191-65-2427

今月のテーマ

地域運営の 落とし穴④



博識杜の フクロウ博士

第20話

知られざる「著作権隣接権」

誰でも気軽にインターネット上に様々な情報を公開できるようになった昨今。地域イベントや自団体の活動の様子などを動画におさめ、YouTube等の動画投稿サイトに投稿するという行為も一般的になりました。特に今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、無観客や来場者制限をかけて開催するイベントも増え、その代替として「動画生配信」に挑戦したという話も多数耳にします。何を隠そう当センターもその一人です。

環境さえ整えば気軽に挑戦できるため、安易に手を出しがちですが、実はそこにはクリアしなければいけない「見えない壁」があり、強行突破すると大きな代償が待ち受けることがあります。今回は当センターの実際の失敗事例を交えて「著作権」と「著作権隣接権」についてご紹介します。

動画配信事件簿

毎年開催している「イチコレ」というファッションイベント。今年は観客を大幅に制限し、動画生配信で代替。**ランウェイで流すBGM**は参加モデルの指定曲もあつたりと、複数アーティストの曲を使用することから、「著作権」については「日本音楽著作権協会(JASRAC)」に事前に問合せをしました。その際、「**非営利・入場無料・出演者への報酬無し**」という3要件に合致することから、著作権の許諾は必要ないとの回答を受け、動画生配信に関しても、JASRACと許諾契約を結んでいるYouTube等であれば問題ないとのこと。ただし、**アーカイブ配信(本配信後も配信内容が見れるようにすること)**をする際には、曲によっては「複製権」に関する手続きが必要だと言われ、その手続きは行う予定でございました。



ところが……!動画生配信は無事に終了し、後日、アーカイブ配信の準備を進めている中で「著作権」とは別に「著作権隣接権」というものが存在することが発覚!著作権が作詞・作曲家など「創作した人」の権利であるのに対し、著作権隣接権はアーティストやレコード製作者、放送事業者など「伝える人」の権利であり、イベント等で音源を使用する際には、著作権とは別に、この「著作権隣接権」の申請(=使用料の支払い)をしなければいけなかったようなのです。

実際、この問題をクリアしないまま、試験的に公開してみたアーカイブ動画はサイト側により「ブロック」され、動画サイト上に投稿はされているのに、非公開状態に……。そこで、当日使用した音源それぞれにおいて、制作したレコード会社に「イチコレそのもので使用するため(事後申告)」と「アーカイブ動画に使用するため」の2点について、音源使用申請を行なうことに。

しかし!ここでもう1つまさかの展開が!上記申請の後者に関して、**そもそも「動画サイトでの使用は許可しない」と明示しているレコード会社があったのです……!**つまり、**イベントそのものでの使用に関しての申請は受け付けてもらったとしても、動画配信においてはその曲が使用できないのです。**

結局、動画配信においては全てのBGMを「著作権フリー」の音源に差し替えることにし、アーカイブ配信の申請は取り下げ。残念ながら「臨場感のない」アーカイブ動画になってしまったのでした……。

ちなみに、取り下げはしたものの、レコード会社によっては動画配信での使用料は**1曲につき年間25万円**という会社もありました。イベントそのものにおける使用料はイベント内容によりけりなのですが、**最低でも3万円程度**はかかるようですし、**手続きには3週間~1か月程度**かかるようで、かなり入念な準備が必要です。

また、「著作権」についてもこの機会に改めて確認が必要です。地域のお祭りなどにおけるステージイベントで、ローカルバンドが演奏したり、子どもたちがダンスを披露したり…という場面がよくありますが、その**出演者に報酬や謝礼を支払う際には、演奏・使用する曲に関する「著作権」の申請も必要**になります。

注意していただきたいのが「どうせ地方のイベントだから無許可で使用してもバレないだろう」と、強行突破すること。冒頭で述べた通り、誰でも気軽に動画配信ができてしまう時代です。著作権、著作権隣接権ともに、申請料の大小の問題ではなく、製作者側にとっては自分の生み出した苦勞の結晶を守る大事な権利です。今回ご紹介した「著作権」「著作権隣接権」の他にも、付随する権利が様々ありますので、一度整理・確認してみることをおすすめします。

ミッション
50

末裔調査
ファイルNo.1

あしとうざん
「芦東山」

当地域には、様々な分野で地域内のみならず日本の発展に大きく貢献した偉人がたくさんいます。偉人として語り継ぐ中で、ついつい気になってしまうのが「その後子孫はどうなっている？」ということ。偉人の功績に関連のあるお仕事をしているのか、はたまた全く別の道を歩まれているのか……。今回は大東町民が誇る偉人「芦東山」の「末裔」を調査し、芦東山の偉業や人柄にも改めて想いを馳せてみます。

※記載内容はあくまでも当センター独自調査の結果です。

近代刑法思想の先駆者

大東町民出身(当時は陸奥国磐井郡東山洪民村)の芦東山は仙台藩の儒学者で刑法学者。

享保6年(1721)、仙台藩で儒教の知識によって仕える儒員に抜擢されると、その学識は高く評価され、江戸参勤の御供ともなりました。

しかし、藩の学問所について藩主に意見したことで、43歳の時、仙台藩家臣の石母田家に「他人預け」の処罰として幽閉されます。66歳の時に「親類預け」となり故郷の洪民村に戻ると、翌年によく完全放免に。約24年もの間、自由に歩けな

い生活を余儀なくされたのでした。この幽閉中に執筆したのが、日本の刑法思想の根本原理を論じた『無刑録』。60歳の時に完成しましたが、発行は許されずまま享年81歳で生涯を閉じます。

没後100年を経過した明治10年、元老院より刊行されたことで世に知られるようになり、近代的な刑法論書として高く評価され、刑法の参考とされました。

※1 東山は自由を奪われたが、かえって公務から解放され時間に余裕ができて、師匠の室鳩巢から頼まれていた刑法書のまとめ作業に取りかかった。
※2 明治初期の日本の立法機関。

無刑録

『無刑録』は、刑の根本について説いた「刑本」から、過度な刑政を戒めた「濫縦」まで14編の構成。中国の古典から刑罰思想に関する記述を抜粋し、中国諸家の解釈を紹介して東山の見解を加えたもの。書名の「無刑」は、中国の「書経(尚書)」に「刑罰于無刑(刑は刑なきを期す)」からとった言葉。「刑罰は、刑罰が無くても犯罪が発生しない理想の世を実現するためのもの」という東山の思いが込められている。
※報復に主眼を置いた当時の報復論論に対し、東山は人々の教育の充実を強調した教育論を唱えた。



芦東山

・元禄9年(1696)、洪民村の肝入・岩淵左衛門の次男として生まれる。本名は岩淵幸七郎。
・祖父の岩淵作左衛門が、熱心に東山を教育。その学才を見抜いた祖父により、7歳で奥州市水沢の正法寺の住職定山良光のもとに弟子入りした東山は、仏書だけでなく儒書にも詳しく、定山から儒教の古典である「孝経」を学んだ。
・15歳で仙台藩の儒学者・田辺整斎の門弟に。26歳で仙台藩の儒員になり江戸参勤の御供となったことで、室鳩巢の門下生となったことでも、朱子学への傾倒、朱子学重視の考え方がその後の幽閉へとつながる。



地元での教育活動

66歳でようやく自由の身となった東山は、以後死去するまでの約15年間、仙台城下までの仙台藩領と一関藩領を歩き回り、様々な人と交流をしながら教育活動を行いました。特に地元・洪民においては、地元内外から教養を求めて東山を訪ね来た人々に向けての教育のほか、医師でもあった東山は、精力的に医療活動も行ったのだとか。

東山を熱心に教育した祖父の岩淵作左衛門は「地域に教育を持ち帰り、それを集落に広めて欲しい。分け隔てなく教育を受けられるということを集落が知り、みんなが知恵をつけて良い暮らし(良い集落)となるように」という願いで東山に教育をしたと言います(芦全さん談)。東山が幽閉されるに至ったのも、学問所における学生の席次が家の身分格式の序列、次いで長幼の順になつていことに對して疑問を呈したことにあります。儒学の考えとともに、祖父の信念をしっかりと引き継いだ東山の教育への想いが現れています。

末裔
ファイル1

近代日本刑法の原点をつくった

芦東山実兄の子孫

芦東山

芦全さん

東山は28歳の時に登米郡米谷(現宮城県登米市東和町米谷)の給人領主高泉家の侍医・飯塚葆庵の娘「チョウ」と結婚。幽閉前後に5人の子どもをもうけますが、幽閉先で1男3女を失います。次女の「サク」が家系図上では唯一の成人した子ですが、サクは下女・益との子であったとか。

※1 サクは、仙台藩儒員の畑中太忠のもとに嫁ぎ、4人の子(東山直系の孫)に恵まれます。そのうち、次男にあたる白華が5人の子(直系のひ孫)に恵まれ、次男の尚甫には2女(直系の玄孫)が。長女は6歳で亡くなっていますが、次女の子(直系の来孫)がテフであることまでは追跡できています。テフは花巻に嫁ぎ、晩年は奥州に居たとされています(昭和9年79歳で逝去)、残念ながらテフ以降の東山直系子孫(例えばテフの子=直系の昆孫など)については、現段階では資料等が見つかりません(それぞれの時代にお妾さんがいて、そこに子どもがいた可能性もありますが、そうした記録は残されていない)。つまり直系の子孫の現在不明……。

ですが、生家は守られています。6人兄弟(義兄を入れると7人)の3男である東山。生家(岩淵家)の屋号は「深芦」で、長男の作左衛門(作兵衛)が継承し、東山が洪民村に戻った時には、その子(東山の甥)である宇(卯)左衛門が当主であり洪民村肝入を務めていました。彫刻家として著名だった宇左衛門のひ孫・正太郎が、岩淵から「芦」に苗字を変え、そこから6代を経て(正太郎→作左衛門→宇(卯)一郎→己之七郎→習一→昇→正八)現在は芦全さんが東山生家の家督を継いでいるのです。

※1 長男は若くに死亡、長女・次女は誕生年までは把握できているものの、その後の成長過程や結婚・子どもの有無、没年等は現段階では調査が進められていない。



芦東山の末裔へ

インタビュー

芦全(あしぜん)：昭和36年生まれ。「深芦」の芦家14代目。芦東山の実兄の子孫であり、芦東山の生家の家督。職業は会社員。

◆生家は東山の住んでいた頃のまま？

— 生家は約40年前にリフォームしているが、雨戸は昔のままと聞いている。ただし、東山がいたときのままかと言うと不明である。屋根は35年前に、かやぶき屋根からトタン屋根に変えた。当時、家の敷地はぐるりと囲いがあって私が生まれたときにはこの状態(囲いはなし)である。ここから見える室根山はきっと東山も見ていたことでしょう。

◆自宅に東山ゆかりの品や遺品等がある？

— 全て芦東山記念館に寄贈・管理してもらっているので、自宅にはありません。
※記念館ができるまでは生家で『無刑録』の原本などを保管していたが、明治期に分家した「伊勢堂」の祥平が他の分家や諸家に伝来していた東山関係資料を収集、遺稿集の編集に取り組んだ。さらに伊勢堂4代目の芦文八郎(平成29年逝去)が昭和58年、自宅に「芦東山先生記念館」を創設、資料等の保存・公開をした。現在の芦東山記念館は、芦文八郎氏がこれらの資料を当時の大東町に寄贈したことを機に、平成19年に開館。



現在の芦東山生家。東山の父は洪民村の肝入でもあり、その後も代々肝入を務めた由緒ある家。リフォームはされているが、場所は変わっていない。

◆末裔としての苦労などは？

— 私が21歳の時に父(正八)が亡くなったため、東京からUターンし、その後は祖父から様々な教えられるが、生家として、末裔としての役目を果たしているが、苦労は特になし。

祖父からは小さい時から「東山に勉強を教えるためにいろんな人がこの家に来たのだ」という話や、「芦東山の信念や生涯、芦東山の生家であること、自分はその家の長男・家督であること」を教えられていたので、小学校に上がるころには、それを理解し誇りに思っていた。

高校生の時は、歴史に精通した先生方が自宅を訪問してくるなど、恥ずかしいなど(年頃だし)感じたことはあった。また、裁判官や警察署長などのお偉いさんが家を訪ねて来ることもあり、さすがに緊張する。一般の人でも「芦家の生家を見たい」とバイクや車で庭に上がってくることもあり、対応はするがビックリしてしまう。

◆ズバリ次の後継者は？

— 息子が3人いる。誰が継ぐかはわからないが、誰かは継いでくれるといいなと期待しています。



芦東山記念館にある「掬水(きくすい)の丘」から望む室根山。生家はすぐ近くにあり、芦東山もこうした風景を眺めたのでは。掬水の丘には東山の祖父の墓碑がある。

調査の過程で整理した芦東山の生涯や無刑録に関する調査メモは、当センターホームページにて公開しています



芦東山記念館内

芦東山記念館(一関市大東町洪民伊勢堂71-17) TEL: 0191-75-3861

東山の生涯と業績を映像やグラフィックを使って分かりやすく展示。周辺には、芦東山の生家や墓地、終焉の地などゆかりの地が10か所ほど点在し、室根山を眺めながら、気持ちの良い散歩も楽しめる。芦東山先生顕彰会によって設置された看板もある。

<取材協力>

芦東山記念館 学芸員 小味浩之氏 / 芦東山記念館 専門学芸調査員 張基善氏

<参考文献>

芦文八郎(1995)『生誕三百年記念 蘆東山先生傳』/ 大藤修(2012)『仙台藩儒学者芦東山の生涯と関係史料の伝来・構成: 付「芦東山記念館所蔵史料目録」』/ 芦東山著・橋川俊忠校訂(1998)『芦東山日記』